

小学校第3学年 図画工作科学習指導案

日 時 平成30年6月22日(金) 2校時
 指導者 教育センター所員 水田 貴久子

1 題材名 「これにえがいたら」

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、新学習指導要領第3学年及び第4学年の内容「A表現」(1)「イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。」と〔共通事項〕(1)「ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。」「イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。」に基づいている。

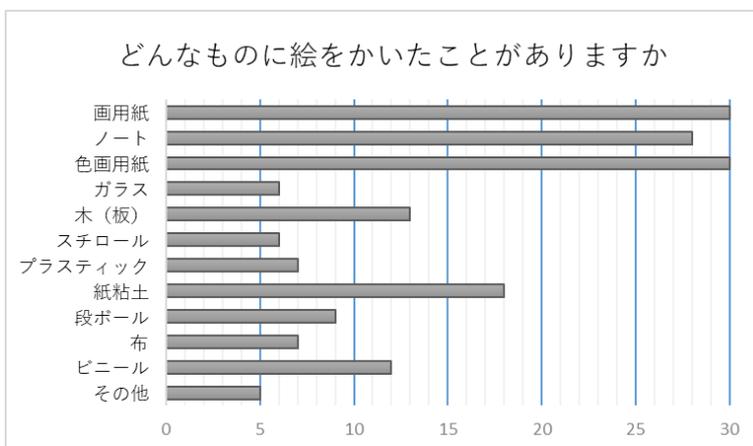
本題材では、いろいろな材料の形や色、感触を捉え、表したいことのイメージをもたせることをねらいとしている。身の回りにある材料の形や色、材料の感じから受けるイメージを基に、自由に材料を操作したり、組み合わせたりすることで発想を広げることができる。画用紙などの画材用紙を使って絵に表すことが多い児童にとって、身の回りの様々な材料を使い、多様な表現ができることに気付かせることは、創作活動への意欲を高めることにつながる。また、油性ペンやクレヨン、パス、絵の具など自分の思いに合った描画材を選択したり、材料を組み合わせたりすることで、最もふさわしい表し方を試行錯誤しながら見付けていくことができる題材である。

このように、材料や用具などの設定の変化に対応して発想し、その特徴を生かし工夫しながら表現につなげていく児童を育成することができると考え、本題材を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童30名を対象に実施した意識調査では、図画工作科の学習を「好き」と答えた児童は90%で、図画工作科の学習を楽しみにし、意欲的に取り組む姿が見られる。「図工で困ることはどんなことですか」の問いには、「思った通りにならない(45%)」、「何をかいたり、つくったりしてよいか分からない(24%)」、「アイデアはたくさん思いつくが、どれにしてよいか分からない(21%)」と答えた児童が多かった。構想から表現活動へつなぐ段階や、発想・構想の段階で困っている児童が多かった。

また、「アイデアが浮かばないとき、どうしていますか」との質問には、「自分一人で考える(48%)」、「友人に聞いたり、友人の様子を見たりする(34%)」、「先生に聞く(18%)」と回答した。アイデアが浮かばないときに「友人に聞いたり、友人の様子を見たりする」と答えた児童は、「友人の良い部分を取り入れたり、参考にしたりする」と回答しており、発想・構想で困ったときに、周りの友人の様子や作品を鑑賞し、ヒントを得ているということが分かった。一方、あまり友人の活動や作品を見ない児童は、アイデアが浮かばないときに、自分一人で考えたり、教師に尋ねたりすることが多いようである。



これまで扱ったことがある画材は左記のグラフの通りであった。画用紙、色画用紙などにかいたことはあっても、その他の材料にかいた経験は少ないので、初めての材料に興味をもつ児童も多いと思われる。

油性ペン、クレヨン、パス、絵の具、色鉛筆、などの描画材はほとんどの児童が扱える。色を付ける道具の経験は絵筆、ローラー、指などであり、それ以外の経験は少ない。

(3) 指導観

本題材の指導に当たっては、導入の段階で、材料の感じから自分の発想を広げるために、材料に触れたり操作したりする時間を十分に確保する。その際、児童が手触りから思いを膨らませることができるように、箱の中に材料を入れ、手触りだけでどのような感じがするかを考えさせる。次に、箱から材料を出して、見た感じ、触った感じを確かめさせる。事前の実態調査によると、「イメージ通りにならない」「イメージが決まらない」「何をかいたり、つくったりしてよいか分からない」「自分の思いをどのように表してよいか分からない」という、発想・構想の段階で困っている児童が多く見られた。そこで、触った感じ、見た感じという曖昧な感じを具現化するために、〔共通事項〕に示す事項を視点として、感じたことや思ったこと、考えたことなどを形や色、オノマトペなどの言葉で整理させる。それらを用いて、表したいことを具現化できるようにワークシートや板書を工夫する。

絵をかく材料は、身の回りにあるが、普段は画材として認識していない不織布、緩衝材（プチプチシート）、滑り止めシート、麻、布、綿、片面段ボールなどを用意する。いろいろな材料に手を加える材料体験をすることで、自分の思いを表現するのにふさわしい材料を選ぶことができると考える。自分の思いに合った表し方ができるように、身の回りのいろいろな材料、油性ペン、クレヨン、パス、絵の具、チョークなどの描画材を準備しておく。

また、互いの製作の様子が見られるように机を配置し、友人の作品や活動の様子を見回ったり、話し合ったりしてよいことを知らせる。自ずと表現と鑑賞を往還させることで、新たな発想や表現方法を見付けられるようにしたい。

3 題材の目標

- (1) いろいろな材料の特徴を見付け、絵をかくことに興味をもち、絵に表す活動に取り組む。(造形への関心・意欲・態度)
- (2) 材料の感じから思いを膨らませ、試しながら表したいことを考える。(発想・構想の能力)
- (3) 自分の思いに合わせて材料を選んだり、組み合わせたり、色を塗ったり、工夫して表す。(創造的な技能)
- (4) 自分や友人の表し方や作品のよさ、面白さを味わう。(鑑賞の能力)

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
① いろいろな材料に興味をもち、材料の特徴を見付けようとしている。	材料を試しながら思いを膨らませ、表したいことを考えている。	自分の思いに合った表し方を工夫している。	作品を見せ合う中で自分や友人の表し方や作品のよさ、面白さを味わっている。
② いろいろな材料に絵をかくことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。			

5 題材の指導計画と評価計画（全4時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価規準と【評価方法】
1 (本時)	<p>◆材料の感じを確かめよう！</p> <p>○画材になるいろいろな材料を手に取り、見た感じや触った感じを確かめたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の感じを確かめながら、形や色、質感のよさや面白さを感じ取る。 <p>○材料の感じから思いを膨らませ、どのように絵に表すか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな描画材や道具等で色をつけ、違いや面白さを感じ取る。 ・材料の特徴から思い付いたことを発表させ、自分や友人の感じ方のよさを知り、想像を広げる。 	<p>関①【観察、発言】</p> <p>発 【観察、ワークシート】</p>
2 ・ 3	<p>◆材料を変身させよう！</p> <p>○材料の感じや特徴を生かすために、試しながら表し方を見付け工夫して表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使ってみたい材料を選び、どの描画材でどのように表すか、試しながら表し方を考える。 ・イメージに合わせて材料を切ったり、組み合わせたり、色を塗り重ねるなど表し方を工夫する。 	<p>発 【観察】</p> <p>関②【作品、観察】</p> <p>技 【作品、観察】</p>
4	<p>◆感じ方や表し方のよさを見付けよう！</p> <p>○友人と作品を見せ合い、互いの活動や表し方のよさを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品と作品名のマッチングをする。 ・友人の表し方のよさを見付け、伝え合う。 	<p>鑑 【発表、ワークシート】</p>

6 本時の目標

材料の感じから思いを膨らませ、どのように絵に表すか考えることができる。

7 本時の視点

造形的な見方・考え方を働かせるための以下の手立ては有効であったか。

- <視点1> ブラックボックスに手を入れて触ったり、材料を試したり、自分の感覚や行為を通して形や色などの感じを捉えさせること。
- <視点2> 自分の思いやイメージをもたせるために、形や色などの造形的な特徴を言語化すること。

8 本時の展開 (1/4)

	学習活動	指導 (○)・支援 (●)	評価【方法】
導 入	<p>1. 学習内容を知る。</p> <p>2. 箱の中に入った材料の触った感じを確かめる。</p> <p>3. 箱から出した材料の見た感じを確かめる。</p>	<p>○「これにえがいたら」の「これ」を予想させ、「いつもとちょっとちがうものにえがく」ことを伝えて意欲をもたせる。</p> <p>●触った感じをしっかりと捉えさせるために、材料の1つを入れたブラックボックスを各グループ用意する。いろいろな感触を表す言葉が出るように、それぞれ違う材料を箱の中に入れておく。</p> <p>○ブラックボックスの中の材料の感触を、言葉で表現させる。(形やオノマトペ)</p> <p>○箱から材料を出して、見た感じを言葉で表現させる。(形や色、オノマトペ)</p> <p>○他のグループの材料と特徴を知る。</p>	<p>関①いろいろな材料に興味をもち、材料の特徴を見付けようとしている。</p> <p>【観察、発言】</p>
ざいりょうをためして えがきたいことを見つけよう！			
展 開 ま と め	<p>4. 本時のめあてを確認する。</p> <p>5. いろいろな材料を試して(触る、見る、手を加える、色を付けるなど)表したいことを見付ける。</p> <p>6. 材料を試して、気付いたことや表したいことをワークシートに記入する。</p> <p>7. 今日の学習を振り返る。</p>	<p>○材料を試す方法の見通しをもたせる。(色を付ける、水の量を調整する、描画材を組み合わせるなど)</p> <p>○参考作品を基に、触った感じ・見た感じから表したいことを見付けるまでの手がかりを黒板に示す。</p> <p>○油性ペン、クレヨン、パス、絵の具、チョークなどの描画材を準備し、効果的に表せる材料と描画材の組合せを見付けさせる。</p> <p>●教師の参考作品や描きたいことを見付ける過程を提示し、児童のイメージが膨らみやすいようにする。</p> <p>●描画材・道具を自由に使ったり、手を加えたりといろいろな材料を試して、自分の表したいことを見付けられるように、声掛けをする。</p> <p>○試してみて1番面白かった材料を想起し、次時でどのようなことをかいてみたいか考えさせる。</p> <p>●表したいことが思い浮かばない児童には、友人の発言や活動の様子を参考にさせる。</p> <p>○今日の活動を基に次時の活動について話し、意欲をもたせる。</p>	<p>発①材料を試しながら思いを膨らませ、表したいことを考えている。</p> <p>【観察、ワークシート】</p>

9 本時の評価規準と判定基準

評価規準	いろいろな材料に興味をもち、材料の特徴を見付けようとしている。 (造形への関心・意欲・態度)		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	材料を触ったり、見たり、 試しながら、形・色、オノ マトペなどの特徴を見付け ている。	材料を触ったり、見たり、 試しながら、形・色、オノ マトペのいずれかの特徴を 見付けている。	(B)に達していない記述
→(B)、(C)と判 断した児童への 支援		→他の視点からも考えるよ うに声掛けをする。	→材料の一部に目を付けさ せ、指、手の平、手の甲な ど触り方を変えさせたり、 何かに見立てさせたりしな がら材料の特徴を見付ける ように促す。
評価方法	観察、発言		

評価規準	材料を試しながら思いを膨らませ、表したいことを考えている。 (発想や構想の能力)		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	いろいろな材料を試しなが ら表したいことを2つ以上 考えている。	いろいろな材料を試しなが ら表したいことを1つ考え ている。	(B)に達していない記述
→(B)、(C)と判 断した児童への 支援		→他の材料で表したいこと を考えたり、選んだ材料と 組み合わせて使えそうな材 料を考えたりするように促 す。	→材料の特徴を基に、何か に見立てさせたり、例えさ せたりしながら、表したい ことを見付けられるように 支援する。
評価方法	観察、ワークシートの記述		